日本語教育（中学校）部会

思考力・判断力・表現力を育む日本語指導

～言語活動の充実を通して～

Ⅰ　研究の内容

本部会では，平成２３年度よりこのテーマを設定し，継続研究を行ってきた。情報があふれる現代社会で，自分で考え判断して情報選択していくことや，より良い人間関係を築いていくための表現力を身につけさせていくことは，ますます重要になってきている。新学習指導要領においても，あらゆる教科で言語活動の充実が求められているが，国語科としての役割は，今まで以上に大きなものがあると言えるだろう。その意味においても，小学校との共同研究は，互いに児童や生徒がどのような過程で力をつけていくのか知ることができ大変有意義である。今年度も，後半共同で授業案検討や，研究授業後の話し合いを行った。

Ⅱ　授業研究

１　『字のない葉書』（光村図書２年）　　松里中学校２年生　平山直樹教諭

（１）目指す言語能力

「父」の心情を読み取り，考えを交流しよう

～登場人物の言動から読みを深め，知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ～

Ｃ領域「読むこと」

イ文章全体と部分との関係，例示や描写の効果，登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。

エ文章に表れているものの見方や考え方について，知識や経験と関連づけて自分の考えを持つこと。

（２）指導の内容や言語活動

ここでの言語活動は，当時の状況や家族構成をとらえた上で，父親の立場になって場面を書き換えるという学習である。「私（筆者）」の視点で書かれた文章を「父」の視点で書き換えることは，「このとき，父親はどのような気持ちだったか」と聞くよりも深く心情を考えることができ，心情の読み取りに書き換えの手段が有効であることがわかった。

（３）指導の工夫

生徒の二極化，指導が必要な生徒への個別対応など，学級の実態を把握し，その対応策として

○「指導のステップ」

○「グループ班（４人・５人）の活用」

○「色を使った配布プリントの見分け方」が紹介された。

そんな中で，授業における学習リーダーが育っていることが感じられ，全員がわかる指導をどう仕組んでいくかという点でヒントを得ることができた。

２　『走れメロス』（光村図書２年）　　塩山中学校２年生　数野透教諭

（１）目指す言語能力

登場人物の行動や考え方をもとに，人物像の変化を読み味わう

～前後のつながりを大切に，ひとつひとつの言葉（描写）をもとに丁寧に読み取る力～

Ｃ領域「読むこと」

エ文章に表れているものの見方や考え方について，知識や経験と関連づけて自分の考えを持つこと。

（２）指導の内容や言語活動

ここでの言語活動は，「メロス」に対する考えを深めるために「メロスは『勇者』と言えるか」をテーマに意見交換を行うものである。メロスを単純に勇者だととらえていた生徒が，英雄とは言えないという立場の生徒の意見を聞き変化していった。生徒達は

本文の表現を根拠にあげながら自分が読み取ったメロス像を説明したり，感想を述べ合ったりしていた。そして全体の発表の中で，メロスは弱さを克服していく等身大の人間としてとらえ直しをしていく様子が見てとれた。

（３）指導の工夫

読み取る，書く，聞き取る，話すなどいろいろな要素が求められたが，日常の取り組みだけでなく，言語活動におけるルールは他教科と共通に行うことも大切である。今回特に

○「ワークシート」→思考や表現を促し，振り返るための記録としてもわかりやすい。

○「グループ班（３人・４人）の活用」→相づちや付け加え，教科書を用いて主体的に読むことや話し合うことを楽しんでいた。

○「的確なメモ」「生徒の発言に対する指導者のフォロー」

といったことが話題に上った。

Ⅲ　研究のまとめ

（成果）

・「視点を変えて読む」「細部の読みにこだわり，表現から丁寧に読み取る」等，新しい試みの研究授業を考えることができ，指導の幅が広がった。

・二度の研究授業，指導案検討を通じて，生徒の表現力を引き出すための教材研究資料，プリント作り，実践に学ぶことができた。また，随筆，物語の中での「言語活動」を取り入れた指導方法としても新たな発見があった。

・言語活動に視点をおいて研究を進めることができ，テーマに迫れた。他人と意見交換をするため，読み取る力，話を聞く力が必要になり，今回の授業でそれらの力を高めることができたと思う。

・国語科の役割，思考・判断・表現の各部分において実践を積み上げていくことで，来年度以降も更なる成果が期待できる。

（課題）

・「作品に応じた読み方の工夫」の幅を，さらに広げていけると良い。

・文学作品の中では作者の意図する主題があるが，出て来た意見をどう収斂させていくかが難しく教え込ませるのではない方法で押さえていくにはどうしたらよいか。

・県教研に参加して基礎基本となる漢字指導，文法指導，言語指導が少なく感じられた。特に中学校では避けられているように感じるが，言語活動を下支えするこれらの研究も折に触れ行っていく必要があるのではないか。

・自分の意見や気持ちを表現するための語彙力が，もう少しあると良い。

・今年度の研究で得られた成果を元に，さらに充実した言語活動となるような手立てを探し，実践していく。今年度学んだことを個々が実践してみることで見えてくるものを課題にできたらよいのではないかと思う。

（授業実践について）

・夏，冬ともに中学校では，古くからある教材を新しい形でアプローチして実践を行うことができたので，成果があった。他の教材を使って同じ視点で実践したり，更に改善を加えて実践したりと，とても広がりのある実践を経験させていただいたと思う。

・１年生に「考えたり思ったりしたことを書く」ことに慣れさせるねらいで①初読感想②作文③レポートなど書かせ，評価して返却することを繰り返した。２学期ぐらいから書く事への抵抗が減り，分量も増え思考力・表現力の向上が見られたように思う。

・従来通りの指導ではなく，課題を明確にする中で，工夫のある実践を図っていきたい。

・実際の授業を通して，指導案には書かれていない，学級や個々の生徒への対応を見ることができた。また，新しいことを試みる上でも，日頃の積み重ねや工夫から学んだ。

（部長　　鮎澤　智美）